様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６０８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２５９９

研究課題名（和文）近代フランス出版文化の言説における「観光」の視点の形成

研究課題名（英文）The Formation of a Tourism Perspective in the Discourse of Modern French Publishing Culture

研究代表者
田口　亜紀（Taguchi, Aki）

共立女子大学・文芸学部・教授

研究者番号：９０６００５０２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究計画では、近代フランスにおける出版メディアの中でも、とりわけ観光に関する言説に注目し、楽しみという概念から定義できる観光がいかに現代の観光に発展していったのかをたどることを目的とした。その際に、観光の考え方の視点がどのように形成されていったのかを旅に関するテキストから読み解き、旅の持つ観光的要素が旅に対する言説をいかに変容させたのかに迫った。
研究では、近代にいたるまで、観光の概念の変容に寄与した文学者のテキストの成立過程について言及し、また、旅の物語がフィクション形式で、具体的な視点を獲得する契機となる作品についても分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、近代のフランス出版文化の専門研究である。観光が生まれた状況で、どのような言説が流通していたのかを、テキストから読み解くことを目的としたが、現代における観光の諸問題の根源を明らかにしたことで、現代における文学と観光の専門分野をまたぐ基礎研究となった。

研究成果の概要（英文）：This study concerns nineteenth-century French travel writing. The purpose of this study is to examine the transition from the 19th-century pleasure trip to modern tourism, and publishing media accompanying this transition. I am also concerned with travel writings and their points of view. As the journey itself contains some notion of tourism, I have traied to extract from travel writing a definition of tourism and to define the tourism in a historical context, especially during the period during nineteenth century when travel writings became more widespread. The study focuses on travel writers who innovated travel writings by including descriptions of several pertinent aspects of their journeys. I also consider these writings from a touristic perspective.

研究分野：フランス文学

キーワード：観光　フランス文学　旅行記　メディア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

フランスにおいて、19 世紀は旅が大衆化した時代である。交通手段の発達、宿泊設備の整備などに伴い、フランス人は国外へと足を伸ばすようになる。万人向けの旅行ガイドブックが登場して、旅が一般化する。

観光旅行が人々の余暇となった現代社会では、誰でも「ツーリスト」になりうる、だが、飛行機や鉄道を利用して、気軽に旅が楽しめる現代と旅のしかたが著しく異なった 19 世紀前半、現代のフランス語のコノテーションが、当時受容されていた属性や性質に一致するわけではない。ツーリストの語が、辞書で定義され始めるのは、19 世紀後半であるが、その定義を 19 世紀半ばの状況にそのまま当てはめるわけにはいかないだろう。

観光が大衆化していく 19 世紀という過渡期に、以下のような疑問が提出されるだろう。

まず、ガイドブック自体のメディアや諸芸術はどのような役割を果たしたのか、さらに、観光が自己に与える影響をどのようにはかるのか、というものである。

一方で、刊行される旅行記の数も増大する。旅行記は文学と報告文の中間に位置することから、規範を持たないために低俗なジャンルとされてきた。しかしながら、ジャンルの不特定性が、逆に旅行記の文学的テーマの可能性を担保するのである。

２．研究の目的

上記の、背景を前提にして、まず、旅と観光、そして旅行記とガイドブックという対比が生まれる。

まず、実体験としての旅というものに焦点を絞ると、19 世紀に入って、鉄道の誕生によって、特権的な人にしかできなかった、空間移動をすべて含めた「旅」という考え方から、安全で、規範化した、万人のための「観光」という娯楽が生まれた。さらに、観光を指南するガイドブックが多く書かれるようになり、旅に個性が失われる状況になる。

観光黎明期の歴史的かつ文化的状況を念頭に置き、観光の具体例を分析することで、この概念の変遷を明らかにし、現代観光文化の諸問題の根源を探ることを目的とする。テキストの分析に立脚した方法で関連文献との関係性も模索しながら、出版文化という大枠で、旅行記というジャンルの特性をも捉える。

３．研究の方法

旅行記の作者は、旅をどのように表象したのか、という点に着目し、作家の旅行記を分析する。作家がガイドブックに相当するテキストを執筆していた場合には、比較研究することによって、メディアの違いによって、描き方や文体に違いが現れるのか、あるいは、描かれる旅が異なって認識されるのか、という視点で分析ができる。

研究の対象（コーパス）としては、出版されたテキストを射程に入れるが、その場合に、テキストの想定される読者を考慮することで、メディアの視点を導入する。すなわち、作り手・送り手から、受け取る側、受容する側の両方を踏まえることで、文化現象としての観光を捉えることができると考えた。

４．研究成果

研究成果として、ミシェル・ド・モンテーニュ、ジャン＝ジャック・ルソー、ジェラール・ド・ネルヴァル、ヴィクトル・セガレン、アレクサンドラ・ダヴィッド＝ネール、ニコラ・ブーヴィエ、イポリット・テーヌといった旅行記作家の旅のしかた、そしてその旅の表象のしかたについて、それぞれの作家のコンテキストの中で旅行記を位置づけることができた。

特にテーヌについては、ピレネー山中についてのガイドブックと旅行記の両方を手掛けたことから、テキスト分析を行い、観光が現代観光へと定着していく過程の一形態を確認することができた。

口頭発表では、「十九世紀フランス旅行記における「観光」の概念の導入と変遷」と題して、無目的の旅、楽しみのための旅、つまり観光という考え方が生まれた状況について考察した。職業作家による旅行記にも観光の視点が確認できること、また、西洋にとって、アンチテーゼとなるオリエントの旅行記、滞在記、またはオリエントが舞台となる小説などの言説にも着目し、ジャンルを超えて、フランス語で観光者としての視線を検証する。オリエントを対象とする近代の旅行記研究が、旅行記に限って議論を限定する傾向があったのに対して、近代フランス人作家の

旅行記から大衆文化までを視野に入れた研究となった。
また、同じく口頭発表の「異文化を学び自文化を学ぶプロジェクト　国際シンポジウム」では、フランスの旅行記を取り上げることで、逆に日本の近代観光の問題点が明るみになった。本研究の観光黎明期に提起された問題が、現代観光、ひいては現代社会の諸問題への解決の糸口になりえた。
　以上の理由で、本研究は、実りあるものとなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 田口亜紀	４．巻 67
２．論文標題 旅と教育 ： ミッシェル・オスロ『アズールとアス マール』とフランス	５．発行年 2021年
３．雑誌名 共立女子大学文芸学部紀要	６．最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田口亜紀	４．巻 第2巻　第1号
２．論文標題 旅する作家たち。モンテーニュと温泉	５．発行年 2017年
３．雑誌名 旅するフランス語　2017年4月号	６．最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田口亜紀	４．巻 第2巻　第2号
２．論文標題 旅する作家たち。ルソーとアルプスの山	５．発行年 2017年
３．雑誌名 旅するフランス語 2017年5月号	６．最初と最後の頁 82-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田口亜紀	４．巻 第2巻　第3号
２．論文標題 旅する作家たち。ネルヴァルと魔術的地理	５．発行年 2017年
３．雑誌名 旅するフランス語　2017年6月号	６．最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口亜紀	4．巻 第2巻　第4号
2．論文標題 旅する作家たち。セガレンとエグゾティスム	5．発行年 2017年
3．雑誌名 旅するフランス語 2017年7月号	6．最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口亜紀	4．巻 第2巻　第5号
2．論文標題 旅する作家たち。アレクサンドラ・ダヴィッド＝ネールとチベット	5．発行年 2017年
3．雑誌名 旅するフランス語　2017年8月号	6．最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口亜紀	4．巻 第2巻　第6号
2．論文標題 旅する作家たち。ブーヴィエと『世界の使い方』	5．発行年 2017年
3．雑誌名 旅するフランス語　2017年9月号	6．最初と最後の頁 84-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口亜紀	4．巻 69
2．論文標題 旅行案内記（ガイドブック）から旅行記へ ：イポリット・テーヌのVoyage aux Eaux des Pyrenees と Voyage aux Pyrenees	5．発行年 2023年
3．雑誌名 共立女子大学文芸学部紀要	6．最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 田口　亜紀
2．発表標題 フランスから世界を考える
3．学会等名 東洋大学 文学部主催「異文化を学び自文化を学ぶプロジェクト　国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 田口亜紀
2．発表標題 十九世紀フランス旅行記における「観光」の概念の導入と変遷
3．学会等名 日本観光研究学会研究分科会 「観光文学研究会」（招待講演）
4．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

1．著者名 田口亜紀 （野崎　歓　編著）	4．発行年 2018年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 372
3．書名 『フランス文学を旅する60章』内「旅するフランス語」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関